

座る席を考えよう

大物と言われる人などが会談するとき、ソファを「ハ」の字型に置き、体が対面するようには置きません。セールスマンも商談するとき、お客様の真っ正面に座らないと言います。面と向かい、目と目があって話をすると、相手を緊張させ、リラックスした雰囲気の中で話を進められないからです。テーブルをはさんで座っても、話の途中に、出来ることならテーブルの横に座り、説明をしたりします。並んで座れるともっといいのですが、親しくないとできません。相手が女性だと気持ちに抵抗感が出て、警戒されることにもなります。

対面でないからといっても話をするので、必要なときには目を合わせることは必要です。楽しく会話をしているのでしたら、自然と目が合い問題はないでしょう。重要な話であったり、相手に信用してもらうためには、目を合わせることは大切です。「目は心の窓」と言います。自分の話を信用してもらうには、嘘でないのだと、目を合わせることで知らせるのです。こちらが、相手の意志を確認するにも、目を見ることは必要です。

相手とどんな話をするのかにより、席を考えましょう。キッチンとした話をするには、テーブルをはさんで話をするのです。楽しい時間をもつときは、ソファに並んで座り、飲み物を飲んで話をすれば、雰囲気もよくなります。



ヒマラヤの青いケシ

私の体験したこと

話し方の知識を深めよう

先日の朝、家の駐車場を通りかかった時、車の後ろのタイヤの異常に気が付いたのです。つぶれていました。昨日まで、普通に乘っていたのにどうしたことかと思いました。出かけるまでに時間があつたので、予備のタイヤと交換しなければと思いました。交換しなければ、タイヤを直しにも行けないのです。

それからが大変だったのです。交換する知識はありました。20年ほど前に乗っていた車のタイヤを交換したことがあつたのです。しかし、すっかり忘れていました。

予備のタイヤは、後ろの道具入れの下にあるはずと思っていても、工具箱がはずせません。後ろの座席を倒したりしてやっとの思いではずしました。ありました。ところがジャッキがはずせないのです。これも試行錯誤の末にはずしました。今度は、タイヤをはずすために、はめてあるホイールキャップがはずせないのです。

タイヤを変えなければ、直しに行けません。ホイールキャップははめこんであるだけだと考えていたので、無理矢理はずしました。その通りはめてあるだけでした。今度は、ボルトが固くて、タイヤが空回りするのです。外すのに難儀をしました。悪戦苦闘です。

工具箱もジャッキも爪で動かないように固定してあつたのです。なぜ、取れないのか後で調べましたらわかつたのです。これが分かっていたら、どうということはなく、スムーズに仕事が運んだのに、知らないで、なぜはずせないのだと頭の中は疑問だらけでした。できないのではないか。そのときはどうしたらよいかと大変な思いでした。

知っているのと知らないのでは、事の対処にえらい違いが出てきます。私は話し方での対処でも、そのことを考えています。スピーチの上達も大切ですが、もっと、人との対処方法も考えてみてください。対人関係がもっとスムーズにいき、人生が楽しく過ごせると考えているからです。

(原)